

令和4年度 部局経営目標（達成状況）

年度	令和4年度	作成日	令和5年3月31日							
部局名	教育委員会	部局長名	安藤 紀子							
(1) 部局の役割・使命（ミッション）・経営方針										
<p>1. 一人ひとりの可能性を広げる【No.4：質の高い教育をみんなに】【No.10：人や国の不平等をなくそう】 共生社会実現のため、誰もが互いに認め合い、尊重され支え合う中で、それぞれの可能性を伸ばす取組を進めます。また、ライフステージに応じた学びを推進し、生涯に渡り学び直しと学びが継続できる取組を進めます。 SDGsの「誰一人取り残さない」社会の実現のため、誰もが安心して教育を受けることができるよう、貧困・障がい・不登校など様々な要因による学びの格差解消や、子どもたちの学びと居場所を支える「学びのセーフティネット」を構築していきます。また、少子化が進む中で小規模化する学校の学びを広げるため、直接、間接の学校間・校種間の交流を進めます。さらに、保育園・こども園・幼稚園から小学校・中学校さらにその先へつながっていく学びの連続性を重視し、切れ目ない支援を充実させていきます。</p> <p>2. 真庭を愛する「ひと」、心豊かな「ひと」をつくる【No.4：質の高い教育をみんなに】【No.11：住み続けられるまちづくりを】 真庭の多彩な地域資源（自然・生き物・風土・歴史・伝統など）を活用しながら、ふるさとに対する誇りと豊かな人間性を育み、創造的な活動へつなげていきます。また、人の繋がりの中で学ぶことを大切に、思いやりや優しい心を育む取組を進め、子どもの心豊かな育ちを支援します。そのために、地域文化を伝承していく人材育成や、地域のことを考える学びを推進していきます。さらに成長の段階で地域貢献を考え、実践する中で自己有用感を高め、地域でいきいきと活躍できる人づくりを進めています。</p> <p>3. 教育を地域で支える仕組みをつくる【No.4：質の高い教育をみんなに】【No.17：パートナーシップで目標を達成しよう】 安全安心な学校生活の環境を整えていきます。給食については、地元食材を使った食育と郷育を進めています。 社会に開かれた学校教育として、地域がスポーツや文化の面からも学校活動を支える仕組みづくりや、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）及び地域学校協働本部の設立を推進し、学校と地域が育てたい子ども像を共有しながら地域の教育力を高めていきます。 家庭教育においては、豊かな心や社会性を育むような成長の支援を目指し、地域ぐるみの子育て支援を行なっています。 また、多様な教育環境や持続可能な地域を目指し、市民が学びつながっていく場の整備や、デジタル化・ネット環境整備、高校の魅力化を進めています。</p>										
(2) 事業成果目標		指標名及び目標値								
1-1 教育振興基本計画の重点的施策の目標達成		指標：重点施策の実施点検								
<p>・真庭市の教育の目指すべき姿と、その実現のために実施すべき基本施策を示す「真庭市教育振興基本計画」の第3次計画を策定しました。第2次計画では、学校・家庭・地域・行政がそれぞれの役割を果たしつつ連携し、社会全体で「セーフティネット」の充実も含めた教育力を高め、すべての人の「教育を受ける権利」の保障を目指しつつ、「共育（協育・郷育・響育）」に取り組んできました。第3次計画では、現行計画を第2次総合計画改訂版に沿って、「地域循環共生圏」、「SDGs」、「共生社会」、「学校と地域との連携」及び「高校の魅力化」の推進の観点から見直しを図ります。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>評価</th> <th>次年度への課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>審議会点検1回/年</td> <td>1回</td> <td>・令和4年度は第3次計画の初年度でした。令和4年度は、重点事業の検証と計画に記載した事業を実施する上での問題点を洗い出す作業を行います。次年度以降に前年度分の事業評価を伴った審議会を開催します。</td> <td>最終年度となる令和8年度には同年度中に第4次教育振興基本計画の策定を行うことから、令和8年度中盤での「中間評価」「評価点検」「審議会」「第4次計画策定」を効率よく進めることが求められます。</td> </tr> </tbody> </table>	目標値	実績値	評価	次年度への課題	審議会点検1回/年	1回	・令和4年度は第3次計画の初年度でした。令和4年度は、重点事業の検証と計画に記載した事業を実施する上での問題点を洗い出す作業を行います。次年度以降に前年度分の事業評価を伴った審議会を開催します。	最終年度となる令和8年度には同年度中に第4次教育振興基本計画の策定を行うことから、令和8年度中盤での「中間評価」「評価点検」「審議会」「第4次計画策定」を効率よく進めることが求められます。
目標値	実績値	評価	次年度への課題							
審議会点検1回/年	1回	・令和4年度は第3次計画の初年度でした。令和4年度は、重点事業の検証と計画に記載した事業を実施する上での問題点を洗い出す作業を行います。次年度以降に前年度分の事業評価を伴った審議会を開催します。	最終年度となる令和8年度には同年度中に第4次教育振興基本計画の策定を行うことから、令和8年度中盤での「中間評価」「評価点検」「審議会」「第4次計画策定」を効率よく進めることが求められます。							

1-2 授業改善による学力向上 ・児童生徒が主体となる授業を目指します。グループでの学習活動を重視し、児童生徒が自ら課題を明確にもち、問題を解いたり、他者と対話をしたりする時間を確保するよう、授業改善を進めていきます。「自律性」「有能感」「関係性」の視点を取り入れた授業を目指し、授業改革推進員等による「授業づくり」についての研修を実施し、各校における校内研究の充実を図ります。これらの取組を通して、児童生徒の学習に対する興味・関心を高めていきます。	指標：国語、算数・数学、外国語の勉強が好きだと回答する児童生徒の割合			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	70%	65%	学力調査の分析をもとに、授業改善の取組を推進しているが、目標値に達していない。児童生徒が、学力の定着や、学びの面白さを実感するための授業改善を更に進める必要がある。	「各種調査による児童生徒の学習状況の把握」「自ら学びに向かう授業展開の工夫」「達成状況の確認と着実な補い」等の視点に立ち、授業改善に向けた校内研究の推進を図る。
1-3 ICT環境の整備（GIGAスクール構想の実現） ・ICTを活用し、個別最適化された学び、創造的な学びの実現に向け、端末を活用した授業が日常化していくことを目標に取組を推進します。児童生徒による端末の活用頻度を高めるために、次の3つの姿を目指します。 ・すべての児童生徒が1日1回以上端末を活用して学習している。 ・すべての学校で端末の共有機能を活用した授業実践を実施している。 ・すべての学校で1週間に1回以上は端末の持ち帰りを実施している。 ・児童生徒による端末活用を進めるとともに、活用事例を交流し、効果的な活用方法を広めます。	指標：登校後すぐにP Cの電源を入れることが定着している学校の割合			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	100%(26校/26校)	54%	学習環境は整ったが、活用については各校で改善の余地がある。端末を活用した授業は全ての学校で実施できているが、活用頻度については、学校間や教員間で格差が生じている。	引き続き端末の効果的な活用事例を紹介するなど、端末活用の必要性・有効性について周知を図るとともに、学校の情報化を総合的に推進する必要がある。
1-4 インクルーシブ教育の推進 ・真庭市が目指す「共生社会の実現」に向け、引き続き小中学校においてインクルーシブ教育を推進します。小中学校の通常学級において特別支援教育の視点を取り入れた授業改善を推進し、通級指導教員、授業改革推進員による特別支援の視点を生かした授業づくりを進めます。また、通級サテライト教室での更なる指導の充実を図ります。さらに、発達発育支援センター、特別支援学校等、専門的な知識を持った機関と連携し、切れ目のない支援体制を構築することで、すべての児童が安心して学ぶことができる学校づくり・学級づくりを支えます。	指標：Q-Uによる「学級生活満足群」の割合			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	小学校70%、中学校65%	小学校63%、中学校63%	通級指導教室や教育支援センターの活用、関係機関等との連携等、相談体制については整いつつある。特別支援教育の視点を取り入れるための研修等は各校で実施されているが、日常的な授業の改善について課題が残る。	Q-Uによる客観的なデータをもとにした個人や集団の確実な実態把握、関係機関との連携継続、通級指導教室との連携強化等により、すべての児童生徒が安心して学び、楽しく学校に通える環境づくりを進めたい。

1-5 義務教育課程の学び直しを実施 令和4年3月に策定した第4次生涯学習基本計画で掲げた目指す姿 「市民誰でも等しく学び、幸せを実感できる社会」より ・誰もが学びたいときに安心して学ぶことができる社会づくりの一翼を担うことを目指し、大人を対象に、国語や算数などの義務教育の学び直しの講座を教員OBなどと連携して開催します。	指標: 社会人の学び直しの講座開催			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	10回/年	9回/年	講師都合で中止になった1回を除き、ほぼ目標通り開催できた。教員OBなどと連携して開催し、参加者アンケートでも概ね好評だった。	参加者は10人程度で、もう一度学んでみたいという人中心だった。参加者を増やすことに加え義務教育課程を学ぶことができなかった人にも伝わるような周知活動を行いたい。
1-6 学校校舎のトイレ環境の向上（拡充による指標変更） ・トイレの洋式化と乾式化については、令和3年度で初期の目標を達成できました。令和4年度は、コロナ感染症対策という新たな課題への対応についても全ての学校の洋式トイレの自動手洗い水栓化、非接触照明化、シャワー洗浄機能付き便座への改修によりさらなる衛生環境の向上を図っていきます。 令和4年度小学校5校（勝山、月田、富原、湯原、八束）：8校は実施済 令和5年度小学校7校（北房、落合、天津、木山、川東、樫邑、余野） 令和6年度中学校4校（北房、落合、久世、蒜山）：2校は実施済	指標: 非接触及びシャワー洗浄機能化達成率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	65% (8/20校→13/20校)	65% (13/20校)	小学校5校の工事は全て年度内に完成できた。この工事により、更なる衛生環境の向上が実現できた。	トイレ改修と空調設置工事などの工事が重なる学校があるため、発注時期や施工期間の調整が必要である。
2-1 キャリア教育の推進 ・郷育を核としたキャリア教育の更なる推進に向け、学校と地域との連携強化を支えます。郷育及びキャリア教育の情報提供、研修の実施等を通して、児童生徒の地域に対する誇りや愛着を醸成するとともに、地域や社会への貢献意欲をさらに高めていきます。また、全校に配布したSDGsスタートブックや、AR（拡張現実）アプリケーションを郷育の成果を発信するツールとして活用し、学校と地域が連携し、協働的に学習を推進していくことを目標に、取組を進めていきます。	指標: 地域や社会をよくするために何をすべきか考えると回答する児童生徒の割合			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	小学校75%、中学校60%	小学校74%、中学校56%	郷育を核として地域参画や地域課題の解決等、課題解決型学習へ取り組むことで、自己の有用性を実感する場面が増えている。ARの更なる活用等、情報発信の仕方には改善の余地がある。	地域学習や課題解決型の学習を通して、自ら学ぶ意欲の向上を図るとともに、SDGsスタートブックとARアプリケーションの活用事例を共有し、積極的な情報発信の更なる推進を図る。

2-2 地域学校協働活動の推進 令和4年3月に策定した第4次生涯学習基本計画で掲げた目指す姿 「市民が学びの成果を生かし、活躍し、心豊かな暮らしを実現する社会」より ・地域全体で子どもを育み、教育の質向上と地域の活性化を図るため、地域と学校が連携・協働する仕組みづくりを推進します。	指標：地域学校協働本部にかかわるボランティア数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	400人/5年	491人/年	学校に関わる市民ボランティアの人数は概ね達成できている。今後は地域づくりにつなげる事を目指したい。	地域学校協働活動推進員同士の横のつながりをつくり、連携する仕組みづくりが求められる。
2-3 地域の文化遺産を活用できる体制の整備 令和4年3月に策定した第4次生涯学習基本計画で掲げた目指す姿 「市民が学びの成果を生かし、活躍し、心豊かな暮らしを実現する社会」より ・地域住民や同志社大学との協働による荒木山西塚古墳の発掘調査を実施することで、文化遺産等の地域資源を活用した地域づくりの実現を目指します。	指標：住民参画人数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	700人	700人	一般の人参加しての発掘調査を実施しており、地域住民・大学等と連携し、発掘調査を通じた地域づくりに発展しつつある。	文化遺産の発掘調査として成果をあげること、地域資源を活用した地域づくりにつなげることを両立させることが求められる。
2-4 中学校における英語教育 中学校の英語授業の改善に取り組むと同時に、英検補助事業の周知を図り、課題に挑戦する態度を養い、中学校卒業段階で英検3級程度の英語力を持つ生徒の育成を図ります。令和2年度は、新型コロナの影響で1学期に実施できなかったこともあり、英検補助事業利用者は3級が46人、準2級が12人、2級が1人と、前年より人数が減っています。改めて事業を周知し、今年度の受験者の割合増加を目指すとともに、英検3級程度以上の英語力を有する生徒を育成していきます。また、小学校段階からのALT派遣を通して、英語への慣れ親しみを大切にすることで苦手意識の軽減を図りつつ、英語力の向上を目指します。	指標：英検3級程度の英語力を有する生徒の割合			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	50%	66%	令和3年度英語教育状況調査より、中学3年生で英検3級程度の英語力を有する生徒の割合は、66%であり、成果が表れている。内、英検を受験したことがある生徒が86%であった。令和3年度は市教委主催でも英語検定を実施したため、英検補助事業利用者は、3級が51名、準2級が23名で、令和2年度比1.25倍であった。	次年度も引き続き中学校卒業時英検3級（CEFAL A1）程度を目指して、ALT派遣事業や英検補助事業を活用して、小学校段階からのALTとのコミュニケーションを通して、国際感覚豊かで英語への親しみを持った児童生徒を育成する。

<p>3-1 高校魅力化推進事業</p> <p>・中学生、保護者に向けた情報発信支援：定員の維持を目指すため、広報紙での特集記事掲載やSNSを通じた高校の魅力ある活動を中学生や保護者の関心事をテーマに情報発信します。</p> <p>・各高校の定員の維持には市外からの入学者を増やす必要があるため、施設面や制度面での受入れ体制の充実の方向性を地域と共に取り組む仕組みを作ります。2高3校地の魅力を中学生や保護者にもわかりやすく発信するとともに、中学生が行きたい、保護者が行かせたい、地域が活かし支えたい高校のあり方を地域と共に考える高校応援市民会議を立ち上げます。また、郷育魅力化コーディネーターを配置し、真庭の地域資源を生かした高校の学習を支援し、さらに小中学校と高校での連続した学びの環境の充実を図ります。</p>	<p>指標：①市内高校進学割合 ②ワークショップ参加者</p>			
	<p>目標値</p>	<p>実績値</p>	<p>評価</p>	<p>次年度への課題</p>
	<p>①70% ②100人/年</p>	<p>① 49.6% ②50人/年</p>	<p>①情報発信：広報真庭での特集やMIT番組の制作、高校独自の発信支援を行いました。</p> <p>②高校応援市民会議：進路決定の実態から、全体会議よりも高校毎の方向性の明確化及び魅力化、そして高校毎の応援機運構築の必要があると判断し動き出しています。ワークショップは蒜山で50人規模で実施されました。</p>	<p>即効性を最優先にしながらも、目先だけではなく中長期的視点を持った取り組みを始めていく必要がある。</p>
<p>3-2 学校給食の地産地消の推進</p> <p>・学校給食を「郷育」の一環と位置づけ、児童生徒と農業者を繋げ、食材を通じた真庭の豊かさを知る機会を提供します。真庭市の食材のみを使用した「真庭食材の日」、通常の給食に真庭市の特産品を一品加える「真庭特産品プラスワンの日」を実施し、その評価により課題を検証し地産地消の推進に努めます。（5品目＝じゃがいも、玉ねぎ、大根、キャベツ、にんじん）</p> <p>また、学校給食の材料に真庭市産品を使うことで市内での回る経済の仕組みをつくります。そのため、給食における市内産品使用について全量調査を行いながら生産者や納入業者などと安定した価格設定について協議を行い、目標値達成に向けた食材調達確保に努めます。</p> <p>・給食材料に真庭市産を使うことと併せて、生産者による講話の機会を通じて児童生徒と地域をつなげながら食育と郷育を進めます。</p> <p>参考：「真庭食材の日」：3回/年。「真庭市特産品プラスワンの日」：6回/年。</p>	<p>指標：5品目の地産地消率</p>			
	<p>目標値</p>	<p>実績値</p>	<p>評価</p>	<p>次年度への課題</p>
	<p>31%</p>	<p>31%</p>	<p>各調理場の年間を通じた使用量を調査し、市内産品の使用量、納品時期等の利用実態を把握した。今後の学校給食食材の地産地消を推進するための基礎データとして活用できる。また、じゃがいもは、冬場に収穫した新たな品種の使用を始めた。真庭産の里いも・ほうれん草の真空カットも試験的に使用した。</p> <p>・「真庭食材の日」：4回/年 ・「真庭市特産品プラスワンの日」：9回/年。新規開拓もあり好評でした。</p>	<p>市内産物の安定的な納品について、流通面での課題や献立での工夫等の課題を検証分析し、市内産品の利用率の向上の具体的な方策（品種・規格など）、保存についても年間をとおし効率良い消費を検討する。また、全体的な地産地消の底上げとして、主要品目以外の真庭産野菜の使用を考えカット・冷凍も含めて検討する。</p>

3-3 地域と協働する学校づくり ・学校運営協議会の設立推進と地域学校協働本部事業との連携強化を図ります。地域と共にある学校を目指し、学校と地域と家庭が共に子どもを育む体制として、また、地域の学校参画の形として、学校運営協議会制度への移行を推進するとともに、地域人材の教育活動への参画を進めます。学校と地域と家庭が、自分たちの地域の子どもの目指す姿を共有し、子どもを真ん中に学校・地域・家庭がともに育つことを目指します。	指標：地域参画による探究的な学習に向けた校内研修実施校数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	100% (26/26校)	92% (24/26校)	地域とともにある学校づくりに向け、教育活動に地域が関わるための研修を各校が工夫して行った。規則改正により、連絡会での情報共有や研修が実施できる体制整備が進んでいる。	全教職員へのCS研修による理解促進を継続するとともに、連絡会での情報共有及び研修を通し、学校と地域がともに学校づくりを進める体制づくりを進める。
3-4 真庭中央食育センターを活用した食育の推進 ・真庭中央食育センターにおける衛生管理・調理工程や地場産物の活用、行事食・郷土料理などを取り入れた取り組みについて、児童生徒や保護者、地域などの幅広い年齢層の方々を対象として、9月以降1ヶ月に1回10～20人程度募集し見学会を実施します。なお、学校行事等クラス・少人数の学年単位での見学は随時受け付け、中学生の職場体験・大学生の臨地実習なども積極的に対応します。また、学校給食では夏期休業中を利用し、栄養士・調理員の衛生研修・調理講習を行い、各主食（ご飯、パン、麺）を使った真庭のオリジナル共通献立を作成します。	指標：施設見学・研修会参加者			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	320人	223人	市内の学校及び園の給食関係職員に対し、施設見学・衛生研修会を実施し、栄養改善協議会2支部に対し見学・試食会を実施した。また、シカ肉260kgを使用し真庭オリジナル共通献立を実施した。施設見学・試食の感想：衛生管理が想像以上でした。地場産野菜を活用し彩りも良く丁度良い味でした。大釜の調理で野菜の煮崩れがなかった。	市内産物の安定的な納品について、流通面での課題や献立での工夫等の課題を検証分析し、市内産品の利用率の向上の具体的な方策（品種・規格など）、保存についても年間をとおし効率良い消費を検討する。また、全体的な地産地消の底上げとして、主要品目以外の真庭産野菜の使用を考えカット・冷凍も含めて検討する。

3-5 市民に親しまれる図書館づくり ・「真庭市図書館みらい計画」において、「真庭市立図書館は、市民や団体による地域自治の拠点として積極的な役割を果たすこと」を使命としました。 ・真庭市立図書館は、使命を果たすため5つの柱（1.公共図書館としての存立基盤の整備、2.子どもの学びへの能動的な貢献、3.地域資源の再評価と新たな価値の創出、4.利用者の知的探究に応えるコンテンツ提供、5.市民が繋がる地域の交流拠点創出）を実行し、市民の「知る自由」や「学ぶ権利」を保障していきます。 ・「真庭市図書館みらい計画」策定にあたって開催した「図書館そだて会議」を引き続き開催し、市民と図書館が対話を重ね、市民とともに図書館の運営状況を確認し、図書館を育てていきます。	指標:①実貸出利用率②「図書館そだて会議」の開催回数			
	目標値 ①13% ②7回以上	実績値 ①11.1% ②10回	評価 ①まず図書館に来館してもらおうと、まにわ図書館ラジオや図書館ラッピングなど様々なイベントを開催により、入館者数は増加傾向にあり、親しまれる図書館づくりが図られているが、蔵書の貸し出しにまで至っていない。 ②「図書館そだて会議」を5館で1回、1館で2回、1館で3回開催し、図書館に関する意見や図書館でやってみたいことなど、図書館と市民が対話を重ねることができた。	次年度への課題 図書館利用者が蔵書に触れ、貸し出しにつながるような取組をしていくことが課題。
3-6 中央図書館の拠点機能の強化 ・中央図書館では、地区図書館への支援や合同イベントの開催、学校図書館への支援、司書研修会などを開催し、地区図書館及び学校図書館との連携をさらに強化していきます。 ・学校図書館蔵書のデータベース化作業が全校で今年度中に終了するよう、登録作業の支援を行い、また、学校図書館への本格的なシステム導入に向け、具体的な内容について学校、関係各部署と協議を開始します。	指標:学校図書館蔵書データベース化完了校数			
	目標値 全校(26校)	実績値 全校(26校)	評価 指標である学校図書館蔵書データベース化は、予定どおり全校(26校)完了した。	次年度への課題 全学校図書館の蔵書のデータベース化が完了し、学校での有効な活用につなげていくことが課題。

3-7 学校施設照明LED化 本市は、「2050ゼロカーボンシティまにわ」の実現を目指し、管理施設は省エネ機器への更新を推進することとしている。しかし、生産終了した水銀灯を使用している学校施設がある。学校施設の照明をLED化し、環境負荷の低減、維持管理費の節減、脱炭素のまちづくりを一層加速させ、電気代や維持管理経費の節減を図るためにもLED照明への計画的な更新を実施する。 （北房小、川東小、落合中は整備済み） 令和4年度から令和8年度までに全校（小学校18校、中学校5校）を整備 令和4年度 校舎設計：小学校1校（川上） 屋体設計：小学校11校（遷喬、草加部、米来、櫻邑、余野、勝山、月田、富原、美甘、中和、八束） 全体計画(整備完了率) 小学校 R3 校舎10%、屋体5% R5 校舎15%、屋体95% R6 校舎40%、屋体100% R7 校舎75%、屋体100% R8 校舎100%、屋体100% 中学校 R3 校舎16%、屋体16% R5 校舎16%、屋体16% R6 校舎16%、屋体100% R7 校舎66%、屋体100% R8 校舎100%、屋体100%	校舎、屋内運動場照明LED化			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	小学校 10 % (2/20校→2/20校) 中学校 16% (1/6校→1/6校)		R 4年度は設計のみのため実績は計上せず。	